はほとんどなくなると思いますが、今回の活動を通じて、災害にあわれた方々の前向きな姿に心を打たれるのと同時に、謙虚さを持って、相手の気持ちを考えて行動することの重要さを改めて感じることができました。

災害に遭われた方々の一日も早い復興を心からお祈りいたします。

水害ボランティアに参加して

農業生産科学科３年　広本亜未

私は水害の影響を受けた小国町の森光でのボランティア活動に参加した。用水路の土や石をスコップで掻きだす内容だった。真夏の昼間で、水分を含んだ土はかなりの重量があり、なれない作業になかなか作業がはかどらなかった。この日は午前と午後に数時間づつ、途中昼に休憩をはさみ作業した。

実質作業時間はあまり多くなかった。あまり役に立てなかったような気もする。ただ、ボランティアに行って、森光の人たちとコミュニケーションをとったり、水害の影響を受けた水田の様子を実際に自分の目で見ることができたことは大変価値があったと思った。

森光の人たちはとても明るく私たちを迎えてくれ、作業を一緒にしたり、スイカなどを用意してくれていたりと、かなりもてなしてもらってしまった(とてもうれしかったが)。また、水害後の水田の様子を自分の目で見ることは、テレビや新聞で知る様子よりさらにその深刻さがわかり、貴重な体験だと思った。

このように、私たちのボランティア体験はボランティアとしてはあまり仕事をしていないが、現地の人たちの様子を見ることができたことは、ボランティアに参加する意義があると思った。

他学部の友人は個人で一般に募集しているボランティア活動に参加したそうで、その内容を聞いた。その友人は、長岡市内で浸水した家屋に消毒剤をつける作業を行ったそうだ。

浸水した家屋は夏の高温もあり、腐敗したような臭いがきつく、大変な作業だったということだ。また、浸水した家屋の様子は仏壇や家具などが倒れていてひどいものだったそうだ。

そういう話を聞くと、自分の体験がボランティアと言えるほどのものなのか、という疑問がわく。友人は自発的にボランティアに参加したいと思い、そういうところを探して何度も参加していた。私が行ったのはもちろん自分の意思だが、きっかけは誘われたからであり、声をかけてもらわなかったら参加していなかった気がする。ただ、私のように行く気持ちはあるが、自分で行動を起こすほど行動的ではない人は多いと思うので、そういう人が参加するきっかけになるような機会を与えてもらったことには大変意義があるように思う。

今回のような機会は、ボランティア参加の間口を広げてくれると思う。ボランティアの間口は狭いわけではないのだが、気持ちの面で個人的には参加しづらいイメージがあった。一人で連絡して、一人で現地に行って、というように、やるべきことが多いイメージがあるのだ。今後、もし災害などが起こることがあるなら（起こらないでほしいが)、今回のような機会があると良いなと思った。